

M・Yさんの主張をきっかけにして

昨日、瑞浪市主張大会が行われました。本校からは、三年のM・Yさんが出場しました。昨年度の大杉倒壊というできごとを目の当たりにしたことで、そして、そこから生まれた感動を、彼女は熱く語りました。私は文化センターのステージの上でライトを浴びて語る彼女の姿を見て、不思議な感覚になりました。「大会」と付く以上、成績が付きます。今回の主張大会に限らず、私はこれまで自分や生徒が出場する大会を数多く経験してきました。正直言って、頂点を極めることができなかつた時には、悔しさを少なからず味わってきました。

しかし、今回の大会だけは違いました。M・Yさんの主張を、ビデオカメラのズームアップした画面を見ながら聞いていて、私は感極まってしまいました。彼女の主張を二人三脚で作りに上げてきたことが、主張する彼女の姿で報われたと感じました。学級担任時代、生徒たちと合唱を作り上げ、ステージで堂々と歌い上げた生徒たちの姿を見届けた時と同じ感覚です。

今年度のM・Yさんの主張の目的はこの後にあります。この日がゴールではありません。大杉倒壊がきっかけになって生まれたM・Yさんの思いを、大湫町の人たちに聞いてもらうこと知ってもらうこと、それがM・Yさんの主張の目的です。必死になって大杉再生活動に取り組む大湫町の人々に、若者の代表としての思いを届けること、M・Yさんも私も、そのために取り組んできました。

彼女の主張は、次のように締めくくられています。

「大杉の雄姿を、もう見ることはできません。しかし、私は大湫町に住む一人として、また、決して多くはない、大湫町の次世代の担い手として、故郷の人々の大杉への思いを大切に受け継ぎ、これからも、自分ができることを実行していきます。そして、もっともっと大湫町を好きになりたいと思っています。」

私の故郷大湫町は、『大杉が育ててくれた町』『住民が大杉を守った町』です。そんな大湫町と、そこに暮らす人たちが私の誇りです。」

瑞浪北中学校校区には五つの地区があります。これだけの地区を校区にもつ学校は、決して多くありません。M・Yさんの主張をきっかけにして、北中生には自分の住んでいる地区についてぜひ考えてほしい。そして、縁あって五つの地区が校区になったのだから、刺激し合って地区を、校区を、そして、瑞浪市を盛り上げてほしい。そんなことを期待しています。

(六月十四日 記)

